



12月14日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



柔軟に進化する天気予報

世界最大の民間の気象情報会社「ウェザーニューズ」と毎日新聞社による「#地球塾2050」が12月14日、千葉市美浜区の幕張テクノガーデンにあるウェザーニューズ本社で開かれました。芝浦工業大学柏中学高等学校の中高生計24人が参加し、気象情報と「みんなで作る天気予報」の重要さを学びました。

進化する気象情報

最近の気象情報の作り方は進化しています。私たちが雲の写真撮ってアプリを通して送った画像データ、公的機関の情報、独自観測のデータ、それらを人工知能(AI)で解析して天気予報を作成しているそうです。AIは機械学習し、独自に補正を重ねて予測値を作成し、より正確な天気予報を作るようになります。私たちの送った天気画像や身近なデータも活用されるといので、今後は積極的に天気予報づくりに貢献したいと思いました。

【西優翔】

柔軟な思考の大切さ

ウェザーニューズが気象情報を取得する方法に興味を持ちました。一般の気象予報では、雨量・湿度などの数値からの情報などで予報を出します。ウェザーニューズは、その現地に住むユーザーからのコメントや雲などの写真から、どのようなことが想像で

きるかを考え、それも一つの情報として活用して予報を出す仕組みです。人の五感なども正しく使うことで、より正確な情報へと変わる。数値だけに縛られない、柔軟な思考を私たちも持つことが大切だと思いました。【岡本大貴】



新たな視点で取り組む

ウェザーニューズでは天気予報の精度を上げるためにAIの技術を利用しています。AIの学習には大量のデータが必要ですが、ウェザーニューズはアプリユーザーからデータを提供してもらおう仕組みを作り、成功させています。

気象には専門知識が必要だと考えていましたが、一般の利用者が参入していることは画期的だと思いました。このような仕組みは、何度もさまざまな策を試した上で、改善を繰り返したものだそうです。僕もこのように新たな視点で物事に取り組めるようになりたいです。【蝦名直樹】

独創的な発想

今回の地球塾では、ウェザーニューズから「災害や異常気象で人が死なない未来をつくる」ために行っていることを学びました。その中でも、アプリのユーザーからも情報を得ていることに興味を持ちました。この取り組みは、今までの天気予報の常識を覆したものであり、とても革新的だと感じました。僕も常識にとらわれないような独創的な発想を心がけたいと思いました。【児玉隼】

目の前に広がる

見たことのない世界

学校からの帰り道、友達に誘われて地球塾に参加しました。最初は正直あまり乗り気ではなく、帰りも遅くなるので断ろうと思いましたが、帰ってもやることがないので承諾しました。しかし、そこには自分が見たことのない世界が広がっていました。近未来感あふれるゲートをくぐる、いきなり最新技術が出迎えてくれ、社内には船や空、道路での旅を守る人たちが

24時間体制で働いていると聞き、思わず声が漏れまじた。そんなウェザーニューズだからか、講師の人たちの話にも引き込まれていきまじた。多くの質問にも親身に答えてくれました。その背中にとても憧れました。頼もしさも感じました。ウェザーニューズのような責任感のある人間になれるように頑張ろうと思いました。【生川寛人】

未来をより良くするために

今回の地球塾で一番心に残ったのは、ウェザーニューズの二大イノベーションの一つを担当する石橋博さんの話でした。僕たちのような一般人と協力して天気を予測するというのです。僕は最初、「一般人に何ができるんだろう」と思いました。僕の思考を遮るかのように、石橋さんは「SNS感覚で空の写真を撮るだけでいい。その空の写真から、いろんなことが分かる」と言いました。僕はそのすごい感銘を受けました。しかし石橋さんは東日本大震災で分かったこの制度の課題を挙げました。それは「常に投稿しなければ、万が一の時の状況がわからない」ということでした。そこは僕たちにかかっていると言われました。僕は、国や、企業、一人の人間が30年後、40年後、その後の未来を変える力を持っていることを感じました。【吉野海唯里】